

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	九州医療科学大学
設置者名	学校法人 順正学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信制 の場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定め る基準 単位数	配置 困難
			全学 共通 科目	学部等 共通科 目	専門 科目	合計		
社会福祉学部	スポーツ健康福祉 学科	夜・ 通信	14	8	321	343	13	
	臨床福祉学科	夜・ 通信	0	0	32	32	13	
薬学部	薬学科	夜・ 通信	13	8	88	109	19	
	動物生命薬科学 科	夜・ 通信	13	10	101	124	13	
生命医科学部	生命医科学科	夜・ 通信	15	11	129	155	13	
臨床心理学部	臨床心理学科	夜・ 通信	15	4	183	202	13	
通信教育部 社会福祉学部	スポーツ健康福 祉学科	夜・ 通信	0	0	22	22	13	
	臨床福祉学科	夜・ 通信	0	0	22	22	13	
(備考) ※学生募集停止 臨床福祉学科 (4年次のみ) 通信教育部臨床福祉学科 (4年次のみ) ※通信教育部スポーツ健康福祉学科は令和6年開設 (1~3年次のみ)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学科毎に開講科目一覧表を、大学ホームページにて公表 <a href="https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure">https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure</a> ※情報公開のページに本制度の公表内容を掲載
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) 該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	九州医療科学大学
設置者名	学校法人 順正学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人順正学園のホームページにて公表  
<https://junsei.ac.jp/edu/outline/disclosure>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	公益財団法人 理事長	令和7年度定時評議員 会(R7.6.13開催)終結 の時から 令和11年度定時評議 員会終結の時まで	コンプライアンス
非常勤	公益財団法人 センター長 (前職)	令和7年度定時評議員 会(R7.6.13開催)終結 の時から 令和11年度定時評議 員会終結の時まで	産学連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	九州医療科学大学
設置者名	学校法人 順正学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)については、毎年度、学部・学科ごとに定めるカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーに基づき、各授業担当教員が作成及び見直しを行っている。</p> <p>シラバスの作成に当たっては、シラバス作成マニュアルを整備し、記載項目や表記方法の統一を図るとともに、授業の目的・到達目標、授業内容及び方法、授業計画、成績評価の方法・基準、事前・事後学修の内容等について、学生が理解しやすい記載となるよう努めている。</p> <p>また、シラバスの質保証を目的として、学科長及びカリキュラム担当教員(シラバスチェック担当者)を中心とした第三者による点検・確認を実施し、内容の充実及び改善を図っている。</p> <p>完成したシラバスは、年度当初の履修登録開始前である3月末までに学修支援システム(ユニバーサルパスポート)を通じて学生へ公表している。また、2019年度からは「実務経験のある教員による授業科目」の項目を設け、該当科目であることが明確に分かるよう記載している。</p> <p>さらに、在学生以外の一般の方に対しても、本学ホームページ上でシラバス検索システムを公開しており、当該年度のシラバスに加え、過年度のシラバスについても閲覧・検索できる環境を整備している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページにより公表</p> <p>※3. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画(シラバス又は年間授業計画の概要)</p> <p><a href="http://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01">http://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01</a></p> <p>* 情報公開のページに公表内容を掲載</p> <p>※学修支援システム・シラバス検索システム</p> <p><a href="https://unipa.jei.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml">https://unipa.jei.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml</a></p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位認定及び卒業認定について、学則（第5章第32条、第36条及び第37条）に基づき、適切かつ厳格に運用している。また、単位認定の要件や成績評価の基準を明確に定め、「学生便覧」に掲載して学生へ周知している。

各授業科目における学修成果の評価については、シラバスの「評価方法」欄に、試験、レポート、小テスト、発表、演習への取組状況、授業への参加態度その他の学修活動など、評価方法及び評価割合を具体的に明示している。担当教員は、これらのあらかじめ公表した基準に基づき、学生の学修意欲や学修状況を含めて総合的に評価し、厳格かつ公正な成績評価を行った上で単位を認定している。

また、卒業論文や卒業研究など、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の達成状況を評価する科目については、ルーブリック評価表等の客観的な評価基準を活用し、学修成果を多面的かつ適正に評価している。

このように、本学では、学生の学修成果を適切な方法により評価し、その結果に基づいて厳格かつ公正に単位認定及び卒業認定を実施している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学修成果を客観的に把握・評価するため、GPA (Grade Point Average) 制度を導入しており、その算出方法、対象科目、評価基準及び活用方法については、「学生便覧」に明確に定め、学生へ周知している。

また、GPA 制度の内容は学内規程等に基づいて適切に運用し、学生の履修指導や学修支援等に活用するとともに、成績評価の客観性及び透明性の確保に努めている。各授業科目の成績評価については、シラバスにあらかじめ示した評価方法及び評価基準に基づき、担当教員が厳格かつ適正に実施している。(別表)

<2019年度入学生まで>

単位修得の認定・学習の評価の基準

以下の基準で単位修得の認定、学習の評価を行います。(学則第36条)

評価	評点	GP	判定	単位の認定
秀 (S)	100~90点	4.0	合格	認定
優 (A)	89~80点	3.0		
良 (B)	79~70点	2.0		
可 (C)	69~60点	1.0		
認定 (N)	—	—	不合格	不認定
不可 (D)	59~0点	0		
放棄 (E)	—	0		

GPA 制度

本学では、成績評価にGPA制度を導入しています。このGPAは、年度末に送付される「成績通知表」およびUniversal Passportにて確認できますが、今後成績優秀者の判定等に利用していきますので、算出方法を理解しておいて下さい。

《GPAの算出方法》

$$GPA = \frac{4 \text{ポイント(秀)} \times \text{単位数} + 3 \text{ポイント(優)} \times \text{単位数} + 2 \text{ポイント(良)} \times \text{単位数} + 1 \text{ポイント(可)} \times \text{単位数}}{\text{履修登録単位数 (不可・放棄を含む)}}$$

ただし、認定科目は修得単位からも履修登録単位数からも除きます。

<2020 年度入学生より>

(学習の評価の基準)

第 18 条 授業科目の成績は、次の基準によるものとする。

評 価	評 点	GP (Grade Point)	判定	基準等
秀 (S)	100～95 点	4.5	合格	到達目標を達成し、極めて優秀な成績をおさめている
	94～90 点	4.0		
優 (A)	89～85 点	3.5	合格	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている。
	84～80 点	3.0		
良 (B)	79～75 点	2.5	合格	到達目標を達成している。
	74～70 点	2.0		
可 (C)	69～65 点	1.5	合格	到達目標を最低限達成している。
	64～60 点	1.0		
不可 (D)	59～0 点	0	不合格	到達目標を達成していない
放棄 (E)	なし	0	不合格	定められた学修水準に達していない (試験未受験・授業出席回数不足等)
認定 (N)	—	—	合格	単位認定科目

(学習成果の指標)

第 19 条 学習成果を測る指標として、GPA を用いる。

2 GPA の計算方法は次の通りとする。

$$\text{年度 GPA} = \frac{\text{当該年度中に履修登録した授業の単位数} \times \text{当該授業科目の GP の総和}}{\text{当該年度中に履修登録した科目の総単位数 (不可・放棄を含む)}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{在学中に履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目の GP の総和}}{\text{在学中に履修登録した科目の総単位数 (不可・放棄を含む)}}$$

3 認定科目は、GPA 計算に含まない。

(通信教育部は以下のとおり、算出方法は上記に準拠)

VI. 科目合否判定・学習評価の基準

科目単位認定試験の採点結果に基づき、各科目単位の評価を行います。評価基準は下の表のようになっています。また成績評価にGPAを導入しています。

平成 22 年度以前入学生		平成 23 年度以降入学生		GP	判 定	単位修得の認定
評 価	評 点	評 価	評 点			
優 (A)	80～100 点	秀 (S)	90～100 点	4	合格	認 定
		優 (A)	80～89 点	3		
良 (B)	70～79 点	良 (B)	70～79 点	2		
可 (C)	60～69 点	可 (C)	60～69 点	1	不合格	不認定
不可 (D)	0～59 点	不可 (D)	0～59 点	0		
放棄 (E)	試験放棄、他	放棄 (E)	試験放棄、他	0		

さらに、学生が自身の学修状況や成績の位置付けを客観的に把握できるよう、学科及び学年ごとの GPA 分布を作成し、ホームページ等を通じて公表している。

また、本学ではチューター制度を導入しており、各学生に対して GPA やその分布状況を活用した個別の学修指導を実施している。これにより、学生の学修意欲の向上や主体的な学修の促進を図るとともに、成績不振者への早期支援や適切な履修指導につなげている。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

大学ホームページにて公表  
<http://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure>  
※情報公開のページに本制度の公表内容を掲載

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学では、建学の理念及び教育目的を踏まえ、各学部・学科の特色に応じた卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を策定し、大学ホームページ、学生便覧及び募集要項等を通じて広く公表している。</p> <p>また、各学部・学科では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的としてカリキュラム・ポリシーを定め、その方針に基づく教育課程を編成・実施している。各授業科目においては、シラバスに明示した評価方法及び評価基準に基づき、試験、レポート、実習、演習、卒業論文等を通じて学修成果を厳格かつ適正に評価し、所定の単位を認定している。</p> <p>卒業認定に当たっては、修業年限以上在学し、教育課程に定められた所定の単位を修得するとともに、ディプロマ・ポリシーに定める資質・能力を身に付けた学生を対象として審査を行う。科目担当教員による厳正な成績評価及び単位認定を基礎として、教務担当部署が成績及び修得単位等を集約・確認し、卒業判定資料を作成する。その後、学科における確認を経て、教授会の審議を踏まえ、学長が最終的に卒業認定及び学位授与を決定している。</p> <p>このように、本学では卒業認定・学位授与の方針を適切に策定・公表するとともに、その方針に基づき、公正かつ厳格な卒業認定を実施している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>大学ホームページにて公表</p> <p>※1. 教育課程の編成と実施方法（3つのポリシー）</p> <p>* 情報公開のページに公表内容を掲載</p> <p><a href="https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01">https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01</a></p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	九州医療科学大学
設置者名	学校法人順正学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://junsei.ac.jp/edu/outline/disclosure">https://junsei.ac.jp/edu/outline/disclosure</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://junsei.ac.jp/edu/outline/disclosure">https://junsei.ac.jp/edu/outline/disclosure</a>
財産目録	<a href="https://junsei.ac.jp/edu/outline/disclosure">https://junsei.ac.jp/edu/outline/disclosure</a>
事業報告書	<a href="https://junsei.ac.jp/edu/outline/disclosure">https://junsei.ac.jp/edu/outline/disclosure</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://junsei.ac.jp/edu/outline/disclosure">https://junsei.ac.jp/edu/outline/disclosure</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページにて公表 ※自己点検評価 <a href="http://www.phoenix.ac.jp/outline/self-inspection-and-evaluation">http://www.phoenix.ac.jp/outline/self-inspection-and-evaluation</a>
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページにて公表 ※日本高等教育評価機構 大学機関別認証評価 <a href="https://www.phoenix.ac.jp/outline/jiheer#main-cont">https://www.phoenix.ac.jp/outline/jiheer#main-cont</a>
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 社会福祉学部、薬学部、生命医科学部 臨床心理学部
教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページにて公表) <a href="https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01">https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01</a>
(概要) 本学では、学則第 1 条において「本学は、教育基本法及び学校教育法の本旨にのっとり、国際化社会に向けて、介護・福祉・医療・薬学に関する理論及び社会の問題を教育研究し、応用能力を持つ人格を陶冶することを目的とする。」と定めている。この理念に基づき、各学部・学科において、それぞれの専門性や特色を踏まえた教育研究活動を展開している。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表) ※1. 教育課程の編成と実施方法 (3 つのポリシー) *情報公開のページに公表内容を掲載 <a href="https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01">https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01</a>
(概要) 各学部・学科が定めるディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) に基づき、教育課程において修得すべき知識、技能、思考力、判断力及び態度等を総合的に評価し、卒業認定及び学位授与を厳格かつ適切に実施している。 学生の学修成果は、カリキュラム・ポリシーに基づいて編成された教育課程において、各授業科目であらかじめ定められた到達目標及び評価基準に従い、公正かつ厳正に評価され、所定の単位を認定している。卒業認定に当たっては、修得単位及び卒業要件の充足状況を教務担当部署が取りまとめ、学科における確認を経た上で、教授会の審議結果を踏まえ、学長が最終的に卒業を認定する体制としており、適正性及び客観性を確保している。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表) ※1. 教育課程の編成と実施方法 (3 つのポリシー) *情報公開のページに公表内容を掲載 <a href="https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01">https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01</a>
(概要) ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を学生が身に付けられるよう、その達成を目的としてカリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針) を策定している。この方針に基づき、学部・学科ごとの教育目的及び人材養成の目的を踏まえ、基礎的教養教育から専門教育までを体系的かつ段階的に編成するとともに、講義・演習・実習等の多様な教育方法を組み合わせて実施している。 また、各授業科目の到達目標、授業内容及び成績評価基準をシラバスに明示し、学修成果を適切に評価することで、専門的知識・技能に加え、課題解決能力や実践力を備えた特色ある専門職人材の育成に取り組んでいる。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表) ※1. 教育課程の編成と実施方法 (3 つのポリシー) *情報公開のページに公表内容を掲載 <a href="https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01">https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01</a>
(概要) 本学の建学の理念に則り、大学及び各学部・学科の使命・目的及び教育目的を反映し、「求める人物像」や「事前に学んできてほしいこと」を中心としたアドミッション・ポリシーを策定し、中等教育段階までに修得すべき知識・能力・特性・目的意識等を明確に定め、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの関連に基づく入学者選抜方法並びに方針に従い、より優秀な入学者選抜を実施すべく、本学ホームページや学生募集要項等に公開している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：下記の URL のとおり、本学 HP 上の情報公開ページに広く基本的組織に関する事項を公開している。

<http://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
社会福祉学部 (通信教育部含む)	—	10人	6人	6人	1人	0人	23人
薬学部	—	18人	17人	2人	0人	0人	37人
生命医科学部	—	12人	3人	2人	0人	0人	17人
臨床心理学部	—	6人	2人	4人	0人	0人	12人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			133人				133人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： 大学ホームページにて公表 ※1. 教員組織、各教員が有する学位及び業績 *情報公開のページに公表内容を掲載 <a href="https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01">https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
授業内容や教育方法の改善・向上にとどまらず、教学マネジメントや学生支援を含む教育活動全般に関わる喫緊の課題をテーマとして、毎年度 FD（ファカルティ・ディベロップメント）研修会を開催している。 FD 研修会では、講演や事例紹介による知識の習得だけでなく、学部・学科や教員・事務職員の枠を超えたグループ討議を実施し、多様な視点から課題の共有や対応策の検討を行っている。これにより、組織横断的な連携を促進するとともに、教育の質保証及び改善に向けた実践的な取組につなげている。 グループ討議の場を設け、積極な問題解決に取り組めるよう、工夫を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
社会福祉学部	80人	66人	82.5%	328人	243人	74.1%	4人	2人
薬学部	140人	77人	55.0%	784人	398人	50.8%	6人	0人
生命医科学部	40人	36人	90.0%	240人	123人	51.3%	0人	2人
臨床心理学部	40人	26人	65.0%	160人	108人	67.5%	0人	4人
小計	300人	205人	68.3%	1,512人	872人	57.7%	10人	0人
通信教育部	300人	26人	8.7%	1,444人	350人	24.2%	62人	18人
合計	600人	231人	38.5%	2,956人	1,222人	41.3%	72人	22人
(備考)								
※令和7年度の入学生募集より、生命医科学部の入学定員を80名から40名に変更 ※編入学生については、定員に欠員のある場合には、学則に定めのある定員以外にも受け入れる場合がある。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
社会福祉学部	57人 (100%)	0人 (0%)	55人 (96.5%)	2人 (3.5%)
薬学部	79人 (100%)	3人 (3.8%)	63人 (79.8%)	13人 (16.5%)
生命医科学部	45人 (100%)	0人 (0%)	35人 (77.8%)	10人 (22.2%)
臨床心理学部	28人 (100%)	3人 (10.7%)	21人 (75.0%)	4人 (14.3%)
合計	209人 (100%)	6人 (2.9%)	174人 (83.3%)	29人 (13.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 宮崎県庁、鹿児島県庁、宮崎県教育委員会、宮崎県社会福祉事業団、宮崎市薬剤師会、宮崎江南病院、KM バイオロジクス株式会社、小泉ネスト動物病院、国立病院機構 九州グループ、ぷらす鍼灸整骨院グループ、株式会社ワンステップ				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
社会福祉学部	61人 (100%)	49人 (80.3%)	2人 (3.1%)	5人 (8.2%)	5人 (8.2%)
薬学部	91人 (100%)	50人 (60.0%)	21人 (23.1%)	16人 (17.6%)	4人 (4.4%)
生命医科学部	58人 (100%)	43人 (74.1%)	5人 (8.6%)	1人 (1.7%)	9人 (15.5%)
臨床心理学部	32人 (100%)	27人 (84.4%)	1人 (3.1%)	2人 (6.3%)	2人 (6.3%)
小計	242人 (100%)	169人 (69.8%)	29人 (12.0%)	24人 (9.9%)	20人 (8.3%)
通信教育部 社会福祉学部	112人 (100%)	69人 (61.6%)	16人 (14.3%)	19人 (17.0%)	8人 (7.1%)
合計	354人 (100%)	238人 (67.2%)	45人 (12.7%)	43人 (12.2%)	28人 (7.9%)
(備考) ※その他は、除籍者並びに転学部転学科者の合計。					

### ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>授業計画書(シラバス)については、毎年度、各学部・学科が定めるカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーに基づき、科目担当教員が作成・見直しを行っている。シラバスの作成に当たっては、シラバス作成マニュアルを整備し、記載内容や表記方法の統一を図るとともに、第三者によるシラバスチェックを実施している。また、学科長及びカリキュラム担当教員(シラバスチェック担当者)が中心となって内容の確認・改善を行い、教育内容の充実及び教育の質保証に努めている。</p> <p>作成したシラバスは、履修登録開始前の3月末までに学修支援システム(ユニバーサルパス</p>

ポート)を通じて学生に公表し、計画的な履修及び主体的な学修を支援している。また、2019年度からは「実務経験のある教員による教育」の項目を設け、対象科目が明確となるよう記載している。さらに、2025年度からは「フィードバック」の項目を新たに設け、授業内課題やレポート、小テスト等に対する教員から学生へのフィードバック方法や時期を明示することで、学生が学修成果を振り返り、継続的な学びの改善につなげられるよう工夫している。

在学生以外の一般の方に対しては、学部・学科ごとのシラバス一覧及びシラバス検索システムを整備し、当該年度のシラバスに加え、過年度のシラバスについても検索・閲覧できるよう、本学ホームページを通じて広く公開している。

さらに、年間の授業計画や学事日程を示す学年暦については、年度当初のオリエンテーションで説明を行うとともに、学修支援システム(ユニバーサルパスポート)にも掲載し、学生への周知及び理解の促進に努めている。

## ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

### (概要)

各科目の学修成果に係る評価は以下の基準に基づき行い、認定を行っている。

#### <2019年度入学生まで>

##### 単位修得の認定・学習の評価の基準

以下の基準で単位修得の認定、学習の評価を行います。(学則第36条)

評価	評点	GP	判定	単位の認定
秀(S)	100~90点	4.0	合格	認定
優(A)	89~80点	3.0		
良(B)	79~70点	2.0		
可(C)	69~60点	1.0		
認定(N)	—	—	不合格	不認定
不可(D)	59~0点	0		
放棄(E)	—	0		

##### GPA制度

本学では、成績評価にGPA制度を導入しています。このGPAは、年度末に送付される「成績通知表」およびUniversal Passportにて確認できますが、今後成績優秀者の判定等に利用していきますので、算出方法を理解しておいて下さい。

##### 《GPAの算出方法》

$$GPA = \frac{4 \text{ポイント(秀)} \times \text{単位数} + 3 \text{ポイント(優)} \times \text{単位数} + 2 \text{ポイント(良)} \times \text{単位数} + 1 \text{ポイント(可)} \times \text{単位数}}{\text{履修登録単位数(不可・放棄を含む)}}$$

ただし、認定科目は修得単位からも履修登録単位数からも除きます。

#### <2020年度入学生より>

##### (学習の評価の基準)

第18条 授業科目の成績は、次の基準によるものとする。

評価	評点	GP (Grade Point)	判定	基準等
秀(S)	100~95点	4.5	合格	到達目標を達成し、極めて優秀な成績をおさめている
	94~90点	4.0		
優(A)	89~85点	3.5	合格	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている。
	84~80点	3.0		
良(B)	79~75点	2.5	合格	到達目標を達成している。
	74~70点	2.0		
可(C)	69~65点	1.5	合格	到達目標を最低限達成している。
	64~60点	1.0		
不可(D)	59~0点	0	不合格	到達目標を達成していない
放棄(E)	なし	0	不合格	定められた学修水準に達していない (試験未受験・授業出席回数不足等)
認定(N)	—	—	合格	単位認定科目

##### (学習成果の指標)

第19条 学習成果を測る指標として、GPAを用いる。

2 GPAの計算方法は次の通りとする。

$$\text{年度 GPA} = \frac{\text{当該年度中に履修登録した授業の単位数} \times \text{当該授業科目の GP} \text{の総和}}{\text{当該年度中に履修登録した科目の総単位数(不可・放棄を含む)}}$$

$$\text{累積 GPA} = \frac{\text{在学中に履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目の GP} \text{の総和}}{\text{在学中に履修登録した科目の総単位数(不可・放棄を含む)}}$$

3 認定科目は、GPA計算に含まない。

(通信教育部は以下のとおり、算出方法は上記に準拠)

#### VI. 科目合否判定・学習評価の基準

科目単位認定試験の採点結果に基づき、各科目単位の評価を行います。評価基準は下の表のようになっています。また成績評価にGPAを導入しています。

平成 22 年度以前入学生		平成 23 年度以降入学生		GP	判 定	単位修得の認定
評 価	評 点	評 価	評 点			
優 (A)	80～100 点	秀 (S)	90～100 点	4	合格	認 定
		優 (A)	80～89 点	3		
良 (B)	70～79 点	良 (B)	70～79 点	2		
可 (C)	60～69 点	可 (C)	60～69 点	1	不合格	不認定
不可 (D)	0～59 点	不可 (D)	0～59 点	0		
放棄 (E)	試験放棄、他	放棄 (E)	試験放棄、他	0		

また、卒業認定に当たっては、各科目担当教員による厳正な成績評価を基に、事務部署において卒業判定の基礎資料を作成し、学科教員及び事務部署の双方で卒業要件の充足状況を確認している。その後、教授会における審議結果を踏まえ、学長がその意見を聴いた上で、最終的に卒業を認定することにより、公正かつ適正な卒業認定を実施している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
社会福祉学部	スポーツ健康福祉学科	124 単位	有・無	49 単位
	臨床福祉学科	124 単位	有・無	49 単位
薬学部	薬学科(2024～)	189 単位	有・無	49 単位
	薬学科(2023 まで)	186 単位	有・無	49 単位
	動物生命薬科学科	124 単位	有・無	49 単位
生命医科学部	生命医科学科	124 単位	有・無	49 単位
臨床心理学部	臨床心理学科	124 単位	有・無	49 単位
通信教育部 社会福祉学部	スポーツ健康福祉学科	124 単位	有・無	49 単位
	臨床福祉学科	124 単位	有・無	49 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：本学園独自の奨学金選考条件の一つとして活用している。毎年度、学修支援システムを活用し周知しており、URL の提示が出来ない。		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：特になし。		

#### ⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページにて公表

<https://www.phoenix.ac.jp/outline/campusmap>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

【2023 年度以前の入学生】

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
社会福祉 学部	スポーツ健康福祉学科	853,000 円	300,000 円	350,000 円	施設設備費 350,000 円
	臨床福祉学科	853,000 円	300,000 円	350,000 円	施設設備費 350,000 円
薬学部	薬学科(1 年次)	1,096,000 円	300,000 円	520,000 円	施設設備費 520,000 円
	薬学科(2 年次以降)	1,576,000 円	-	520,000 円	施設設備費 520,000 円
	動物生命薬科学科	1,146,000 円	300,000 円	350,000 円	施設設備費 350,000 円
生命医科学 学部	生命医科学科	1,146,000 円	300,000 円	350,000 円	施設設備費 350,000 円
臨床心理 学部	臨床心理学科	853,000 円	300,000 円	350,000 円	施設設備費 350,000 円
通信教育 部 社会福祉 学部	臨床福祉学科	155,000 円	(1 年次) 30,000 円 (2 年次編入) 40,000 円 (3 年次編入) 50,000 円	30,000 円～	科目登録料 30,000 円 スクリーニング履修料・メディア履修料 4,500 円/1 単位 CD-R 教材費 3,000 円/1 単位 実習費 (選択者のみ) 100,000 円

※通信教育部については、履修単位等により別途徴収する費用がある。

【2024 年度以降の入学生】

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
社会福祉 学部	スポーツ健康福祉学科	900,000 円	300,000 円	550,000 円	施設設備費 350,000 円 救急救命コース履修者は 3 年次 実験実習費 200,000 円
薬学部	薬学科	1,150,000 円	300,000 円	650,000 円	施設設備費 350,000 円 5 年次 実験実習費 300,000 円
	動物生命薬科学科	900,000 円	300,000 円	350,000 円	施設設備費 350,000 円
生命医科学 学部	生命医科学科	900,000 円	300,000 円	500,000 円	施設設備費 350,000 円 3 年次 実験実習費 150,000 円
臨床心理 学部	臨床心理学科	900,000 円	300,000 円	500,000 円	施設設備費 350,000 円 言語聴覚コース履修者は 3 年次 実験実習費 75,000 円 4 年次 実験実習費 75,000 円
通信教育 部 社会福祉 学部	スポーツ健康福祉学科	155,000 円	(1 年次) 30,000 円 (2 年次編入) 40,000 円 (3 年次編入) 50,000 円	30,000 円～	科目登録料 30,000 円 スクリーニング履修料・メディア履修料 4,500 円/1 単位 実習費 (選択者のみ) 100,000 円
	スポーツ健康福祉学科 ハイブリッドコース	600,000 円	30,000 円	30,000 円～	科目登録料 30,000 円 実習費 (選択者のみ) 100,000 円

※通信教育部については、履修単位等により別途徴収する費用がある。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>本学では、2026 年度よりアカデミック・アドバイジング推進機構を設置し、「学生ファースト」の理念のもと、学生一人ひとりの学修状況や成長段階、個々のニーズに応じたきめ細かな支援体制を構築している。同機構を中核として、学修支援、学生生活支援、キャリア支援及び健康支援を有機的に連携させ、早期発見・早期対応による継続的な学生支援を推進している。</p> <p>学修支援については、スチューデントサポートセンター（教務部・学生部）を中心に、履修指導や成績管理、学修相談、学生生活支援、留学支援及び課外活動支援などを実施し、学</p>
--

<p>生が安心して学修に取り組める環境を整備している。</p> <p>また、附属図書館では、ラーニングコモンズを活用した自主学修やグループ学習の場を提供するとともに、学修支援サービスや学術情報の充実を図り、学生の主体的な学びを支援している。</p> <p>さらに、キャリアサポートセンター、健康管理センター等の関係部署とも緊密に連携し、進路選択支援や心身の健康支援、合理的配慮を必要とする学生への支援など、多面的な学生支援を実施している。</p> <p>これらの組織的かつ横断的な取組を通じて、学生の修学支援の充実、学修成果の向上及び円滑な修学の継続を図るとともに、一人ひとりの成長と自立を支える支援体制の強化に努めている。</p> <p>なお、日本学生支援機構給付型奨学金の採用候補者である入学者に対しては、専願入試合格者で給付奨学金採用候補者決定通知の写しを提出できることを条件として、入学金及び前期分授業料等の徴収を入学後の5月27日まで猶予する取組を実施している。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学では、就職支援を行うキャリアサポートセンターを組織し、各学科のキャリアサポート委員（教員）と連携し教職協働による手厚い支援を実施している。学内で実施する就職面談会では、学生の希望する事業所に参加いただくことで学生の満足度を高めている。また、各学科の要望に応じ、各種の就職イベントを対面形式にて開催している。さらに、医療専門職の宮崎県外への流出を少なくするために、宮崎県内のみの事業所を対象とした薬学科就職面談会を実施している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1) 健康管理センター</p> <p>毎年4月に全学生を対象とした定期健康診断を実施し、受診後のアフターフォローとして、健康管理センターの職員による保健指導や医療機関への受診勧奨を行っている。また、医師や看護師等の専門職を配置し、突発的な体調不良や慢性的な身体疾患を持つ学生に対し、迅速な救急処置や継続的な療養支援、教職員と連携した修学上の配慮を行っている。</p> <p>2) 学生相談室</p> <p>学生相談室（カウンセリングルーム）を設置し、臨床心理士及び公認心理師等の有資格者を配置して、学生の心理的支援を行っている。また、毎年全学生を対象にスクリーニング検査（UPI）を実施し、心理的ストレスや不適応傾向の早期発見に努めている。高ストレスと判定された学生の情報は、健康管理センター等の関係部署と共有し、早期支援につなげている。なお、相談室閉室時や緊急時には、健康管理センター及び学科教員と連携し、適切な支援を行う体制を整備している。</p> <p>3) 障がいのある学生に対する支援</p> <p>障がい（発達障害を含む）のある学生への支援体制として、「障がい学生サポート委員会」を中心に、健康管理センター、チューター、学科教員、アカデミック・アドバイジング推進機構（教務・学生・キャリア支援）が密に連携し、組織的な情報共有と合意形成を行っている。合理的配慮の申請に対しては、標準化した支援フロー（①相談、②面談、③要望書受付、④対応検討、⑤通知・説明、⑥合意書締結、⑦定期的なモニタリング）を構築し、学生のニーズに即した確実かつ適切な修学支援を行っている。</p>

## ⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：教育研究上の情報として、大学ホームページにて公表

<https://www.phoenix.ac.jp/outline/disclosure/disclo-01/disclo-01-info>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F145310111583
学校名 (〇〇大学 等)	九州医療科学大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人順正学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生 (内数) ※家計急変による者を除く。		251人 (140) 人	230人 (130) 人	-人 (144) 人
内 訳	第Ⅰ区分	81人	77人	
	(うち多子世帯)	(15人)	(13人)	
	第Ⅱ区分	31人	29人	
	(うち多子世帯)	(-人)	(-人)	
	第Ⅲ区分	27人	21人	
	(うち多子世帯)	(-人)	(-人)	
	第Ⅳ区分 (理工農)	0人	0人	
	第Ⅳ区分 (多子世帯)	37人	34人	
	区分外 (多子世帯)	75人	69人	
家計急変による 支援対象者 (年間)				-人 (0人)
合計 (年間)				261人 (144) 人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	-	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	14人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	14人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。